

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670300682
法人名	社会福祉法人 幸伸会
事業所名	グループホーム とも
訪問調査日	平成22年2月17日
評価確定日	平成22年3月15日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4670300682
法人名	社会福祉法人 幸伸会
事業所名	グループホーム とも
所在地	鹿屋市田崎町1307-1 (電 話) 0994-42-6860
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号 南光ビル303号
訪問調査日	平成22年2月17日

【情報提供票より】(平成22年1月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成15年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	13人, 非常勤 2人, 常勤換算 11人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	6,000 円
敷 金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 800 円			

(4)利用者の概要(1月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	4 名	要介護2	2 名		
要介護3	5 名	要介護4	7 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.3 歳	最低	72 歳	最高	91 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	前田内科 西の原歯科
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市街地から少し離れた場所に建てられたホームは、天井が高く、のびのびと明るい雰囲気を感じられる。町内会の班に所属しており、地域の作業や行事にも積極的に参加している。また、幼稚園や小学校との交流もあり、毎年行われるホームの夏祭りには、年々地域の参加者が増えてきている。職員は、ご家族や地域の方々、行政や医療関係者と協力しながら、利用者の穏やかな日々のために、明るく向上心を持って取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	災害対策として備蓄について課題となったが、普段の料理にも使える物を準備し、定期的に賞味期限の確認も行っている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義を理解した上で、ユニット毎の職員で話し合いながら自己評価に取り組み、日々のケアを振り返る機会となっている。指摘された項目については、運営推進会議やホームの会議で報告し、改善に向けて取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	ご家族や行政担当者、地域住民等が参加し、ホームの近況報告や改善に向けての話し合いが行われている。話しやすい雰囲気の中で相談や意見交換が積極的に行われ、サービスの向上に反映されている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ご家族の訪問時や家族会の際に声かけして、意見を引き出すように努めている。出された意見は職員に報告しており、改善が必要な場合には早急に対応して、サービスの質向上につなげている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に所属し、班会やゴミステーションの清掃、奉仕作業などに参加している。回覧板により地域の情報が入りやすく、「ともだより」を入れて回覧することで、ホームを知ってもらう手段にもなっている。また、幼稚園や小学校の行事へ出向いたり、体験学習を受け入れているほか、ホームの夏祭りには地域の方々も参加していただいている。

2. 評価結果詳細

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの名前である「とも」を「共」に置き換え、地域の中で利用者およびご家族、職員が共に支えあいながら過ごして行けるようにとの思いを込めて作られた理念である。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	常に理念を意識することができるように、目に付きやすい場所に掲示している。日常的にわからないことは職員同士で確認し合いながら、理念を実現できるように取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に所属し、班会やゴミステーションの清掃、奉仕作業などに参加している。回覧板により地域の情報が入りやすく、「ともだより」を入れて回覧することで、ホームを知ってもらう手段にもなっている。また、幼稚園や小学校の行事へ出向いたり、体験学習を受け入れているほか、ホームの夏祭りには地域の方々も参加していただいている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解した上で、ユニット毎の職員で話し合いながら自己評価に取り組み、日々のケアを振り返る機会となっている。指摘された項目については、運営推進会議やホームの会議で報告し、改善に向けて取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族や行政担当者、地域住民等が参加し、ホームの近況報告や改善に向けての話し合いが行われている。話しやすい雰囲気の中で相談や意見交換が積極的に行われ、サービスの向上に反映されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームの運営や設備などについて、日頃から気軽に市へ出向き相談している。また、担当者が運営推進会議以外にも、ホームを見学する機会がある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行される「ともだより」で、ホームの近況や利用者の様子、職員の異動等を報告している。また、2ヶ月に1回個人別に写真を掲載し、コメントを添えた担当者だよりをご家族に送付している。金銭管理については、定期的に報告し、ご家族のサインをもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の訪問時や家族会の際に声かけして、意見を引き出すように努めている。出された意見は職員に報告しており、改善が必要な場合には早急に対応して、サービスの質向上につなげている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係を重視しており、職員の異動は最小限に抑えている。やむを得ず退職者があった場合、新しく採用された職員は、指導役の職員と共に行動して利用者の状況を理解してもらい、利用者が混乱すること無くスムーズに対応できるように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部外部を問わず、研修には積極的に参加させており、法人内で行われる研修は経験年数別に分けて、それぞれの能力に応じて受講できるように配慮している。資格取得についても、勤務体制を考慮するなどして積極的に支援している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区のグループホーム協議会に加入している。同一法人のグループホームも含めて、事業所間の情報交換や交流など、同業者とのネットワーク作りを図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人およびご家族に見学をしてもらい、ホームの雰囲気理解してから入居を決めてもらっている。入院などで本人の見学が困難な場合には、職員が病院等に出向いたり、可能な場合には自宅を事前に訪問したりして、それまで本人が暮らしてきた環境を理解した上で、入居の受け入れ準備を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔ながらの料理や家事、方言などを利用者から学ぶことは多く、職員はそれらを日常生活に取り入れて、支えあいながら生活を送っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者を選んでもらう場面を作り、思いを表しやすいような環境作りに配慮している。一人ひとりの変化や日常の些細な言葉などを実行表に記録して、思いを汲み取るように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご家族への聞き取りをはじめ、かかりつけ医のアドバイスや関わりのある人たちからの意見も含めて介護計画を作成している。介護計画は実行表に反映させ、計画に沿って共通したケアが実践できるように努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居後は早い段階で、より現状に即した計画を作成する為に見直しを行っている。定期的な見直し以前に状態が変化した場合には、関係者の意見を反映させて、新たな介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	出張理容の受け入れや、本人およびご家族の希望に応じての通院支援、急な外出や外泊などに柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人およびご家族の希望によりかかりつけ医を決めてもらい、ご家族の協力や職員の同行により受診の支援を行っている。受診の際はホームでの状況をかかりつけ医に伝え、継続して適切な医療が受けられるように配慮している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に看取りに関する意思の確認および同意書を交わしており、本人およびご家族の意向を確認している。その後も繰り返しご家族やかかりつけ医と話し合いを行いながら、適切に対応できるように努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録類は人目に触れないように保管しており、個人情報の取り扱いは適切に行われている。身体拘束廃止委員会が設置され、物質的な抑制に止まらず言葉による抑制にも注意するように努めるなど、職員間の共通した理解の下でケアを行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな生活の流れの中で、利用者の意見を反映しながら、食事や起床時間など、その人に合った時間を過ごすことができるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	同一法人の管理栄養士が作成した献立を参考にして、利用者の意見を取り入れながらホーム独自の献立を作成している。誕生日におやつ作りをしたり、季節の行事に合わせた食事を作ったりと、食事が楽しみなものとなるように工夫を凝らしている。利用者一人ひとりの力量に合わせて役割を持ち、配膳や下ごしらえなどに参加している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	2日に1回は入浴できるように、入浴した日を実行表に記録して清潔が保てるように配慮している。声かけを工夫したり、状況によってはご家族の協力をもらいながら、スムーズに定期的な入浴ができるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	回覧板配りや家事作業などの役割を持ちながら、張り合いのある生活を送ることができるように支援している。入居時に、本人やご家族から生活歴を聞き取り、好きなことや得意なことを把握して生活の中に取り入れることで、楽しみのある日々を過ごせるように配慮している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や畑での野菜作り、日用品の買い物など、日常的に外出する機会を設けて気分転換を図っている。季節によってはドライブを計画し、季節を肌で感じてもらえるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠しておらず、自由に出入りできる。利用者が外出されそうな場合は、職員と一緒に付き添うようにしている。近隣の方々にはホームの状況を理解していただいております。利用者を見かけたら連絡してもらえ関係が築かれている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回の消防署立会いの訓練に加えて、毎月、自主防災訓練を実施しており、防災に対する意識の高さが伺える。備蓄もなされ、定期的に賞味期限の確認を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は毎食記録して、職員全員が一人ひとりの摂取量を把握できるようにしている。同一法人の管理栄養士が作成した献立を参考にして、毎日のメニューを決めている。注意が必要な利用者については水分量を記録し、飲み物を工夫して摂取を促している。	○	1日を通すと職員の入れ替わりがあるため、注意が必要な方以外の利用者も含めた、全体の水分確保状況を全職員が確認できるような方法を検討していただきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には季節に応じた飾り付けがなされており、屋内に居ながら季節を感じることができるように工夫されている。イスやテーブルの位置は、利用者の状況に合わせて過ごしやすいように配置している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が使い慣れた物の持込をご家族に依頼し、馴染みのある居室になるように働きかけている。ご家族の写真や観葉植物など、本人の好みの物を置き、居心地良く過ごせるように工夫している。		